

10月 ～11月	〈恵迪寮寮祭で一般開放 恵迪座公演、部屋デコでにぎわう〉 第107回恵迪寮祭で10月31日(土)と11月1日(日)の2日間、寮内が一般開放され、伝統の恵迪座公演や部屋デコがお目見え、恵迪OBや一般市民の人気を集めました。 例年、大胆な社会派劇を披露する恵迪座の今年の演題は「限りなくモノクロに近い カラフルな世界で」。 ストーリーは人間の誕生にあたり神様がそれぞれ色をつけたところ、色の違う人間同士が戦争を始めた。たまたま神様は、2人だけ色をつけ忘れ、透明人間になったその人間が色の付いた人間同士の戦争をやめさせるという反戦劇です。 このほか、部屋デコでは、寮生たちが普段食べに行く北18条界隈のラーメン店をまねた「ラーメンの山次郎」が来店し、家族連れの市民らは「寮生にしては美味いね」と、感心していました。  恵迪座で反戦劇を熱演する寮生
11月	〈三種の「都ぞ弥生」CD制作 インstrument演奏終了〉 3年前の「都ぞ弥生」百年記念の集大成となる、様々な楽器によるInstrument演奏のCDをはじめ鎮魂の演奏のCD、外国語バージョンの「都ぞ弥生」を集めたCD、いわゆる「三種の『都ぞ弥生』CD」(以下三種のCD)制作が本格化しました。 「三種のCD」は、あらゆる手法や角度から「都ぞ弥生」に照準を当て、その音曲や歌詞の素晴らしさを世に伝えていこうというもので、2016年4月の完成を目指しています。 すでに恵迪寮OBの名誉教授らによるドイツ語やアイヌ語で「都ぞ弥生」が訳され、「文化講演と寮歌の集い」で披露されました。 11月11日、12日の両日には、クラーク会館講堂でのInstrument演奏CD、鎮魂の演奏のCDの音源収録が行われました。今回は北大邦楽研究会OBによる尺八・琴の演奏、各種管楽器による北大応援吹奏団の演奏、北大交響楽団によるヴァイオリンとチェロの演奏。さらに、チェロ(短調)による「都ぞ弥生」と「別離の歌」を収めた鎮魂の演奏曲(レクイエム)などを延べ8時間かけて収録しました。 制作器材一式を提供された川原幸則君(S31)の体調が勝れず立ち会うことができないため、CD制作副委員長の千川浩治君(S40)や文常委員長の野本健君(S47)の指揮の下、既存音源の提供者で東京から来道した前島一淑君(S31)も収録の監修役として参加して最大のヤマを超えました。  琴や尺八で「都ぞ弥生」を演奏する邦楽研究会OB・OG  3種のCD制作で管楽器を演奏する応援吹奏団